令和２年度

伊東市教育委員会
自己点検・評価報告書

令和４年１月

伊東市教育委員会

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条の規定により、令和元年度の伊東市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を報告するものである。

令和４年１月

伊東市教育委員会教育長　　髙 橋　雄 幸

目　次

１　趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　点検・評価の対象　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

３　教育委員会の活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

４　教育委員会が管理・執行する事務　・・・・・・・・・・・・・・・・　２

５　教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務　・・・・・・・・　３

６　伊東市教育委員会の自己点検・評価シート　・・・・・・・・・・・　４

７　学識経験者による意見　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

伊東市教育委員会の自己点検・評価について

１　趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２６条の規定により、令和元年度における伊東市教育委員会（以下「教育委員会」といいます。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより教育委員会の責任体制の明確化及び体制の充実・強化を図り、効果的な教育行政を推進します。

なお、点検及び評価を行う際には、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りました。

〇地方教育行政の組織及び運営に関する法律　（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２　点検・評価の対象

伊東市では、第四次伊東市総合計画で「ずっと住みたい　また来たい　健康保養都市　いとう」という将来像を掲げています。教育委員会教育部では、その将来像の実現のために第十次基本計画において政策目標を「心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち」とし、その施策を「教育環境の整備」、「教育の充実（保育園）」、「教育の充実（幼稚園）」、「教育の充実（小・中学校）」、「生涯学習活動の推進」、「市民スポーツ活動の支援」、「歴史・芸術文化の振興」及び「青少年の健全な育成」の８項目としています。この８項目に「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」を加えた１０項目に属する事業について点検・評価を行いました。

３　教育委員会の活動

本市の教育委員会は地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育長と４人の教育委員による合議体の組織として構成され、毎月の定例会開催のほか、必要に応じて臨時会を開催しています。

教育委員会は、合議により所管である学校やその他の教育機関の管理、学校教育施設に関する全般的な事務並びに社会教育、社会体育、学術及び文化に関する事務の管理、執行等について、本市の実情に即した教育行政を推進しています。

これらの教育事務を処理する教育委員会事務局は教育長の指揮監督の下に組織構成され、それぞれの事務を分掌しています。

４　教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会が管理・執行する事務は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２１条に定められていますが、伊東市教育委員会教育長に対する事務委任規則（昭和４３年伊東市教育委員会規則第１号）の規定により教育長に委任されているものを除き、次の事務の執行を行うこととなっています。

(1)　教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。

(2)　教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。

(3)　教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。

(4)　教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。

(5)　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条の規定する点検及び評価に関すること。

(6)　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２７条及び第２９条に規定する意見の申出に関すること。

(7)　教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。

(8)　社会教育関係委員・団体等の委員の委嘱に関すること。

(9)　学齢児童生徒の就学すべき学校の区域の設定及び変更に関すること。

５　教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務は、伊東市教育委員会教育長に対する事務委任規則の規定により教育長に委任されたものについて、伊東市第十次基本計画で教育委員会教育部各課が定めた方策を実現するための事業を推進しました。

(1)　学校施設の環境整備（１事業）
(2)　給食センターを活用した食育・地産地消の推進（３事業）
(3)　ＩＣＴ教育環境整備の充実（３事業）
(4)　少子化や地域の特性に対応した活力ある学校づくりの検討（１事業）
(5)　多様な保育事業の実施（１事業）
(6)　地域における子育て支援拠点施設の整備（１事業）
(7)　待機児童解消に向けた取組の実施（１事業）
(8)　障がい児童等への支援（１事業）
(9)　認定こども園（幼保一体化施設）の整備（１事業）
(10)　食育の推進（１事業）
(11)　幼稚園教育の充実（１事業）
(12)　保護者とともに子どもの育ちを支える支援の推進（２事業）
(13)　集団保育を実施するための環境整備（１事業）
(14)　子育てニーズに応じた幼保連携の推進（２事業）
(15)　園・学校の基盤づくり（４事業）
(16)　「学びを楽しむ力」の育成（３事業）
(17)　「人として備えたい力」の育成（５事業）
(18)　「命を守る力」の育成（４事業）
(19)　教育的支援体制の充実（１事業）
(20)　生涯学習機会の提供（３事業）
(21)　市民の自発的生涯学習活動の推進（４事業）
(22)　図書館機能の充実（２事業）
(23)　スポーツ指導者の養成（３事業）
(24)　歴史、芸術文化に触れる機会の創出（２事業）
(25)　歴史文化情報の発信（１事業）
(26)　芸術文化活動の支援（１事業）
(27)　声かけ・あいさつ運動の推進（１事業）
(28)　地区青少年健全育成活動の活発化（１事業）

令和２年度 伊東市教育委員会の自己点検・評価シート

【評価基準】

A：目標を十分達成し、期待される成果が得られた（80%～100%）
B：目標をおおむね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた（60%～80%）
C：目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた（50%～60%）
D：目標をあまり達成できず、成果が少なかった（30%～50%）
E：目標をほとんど達成できず、成果がなかった（30%未満）
－：評価不能（新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施できなかった場合 等）

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
教育総務課	教育委員会の活動	1	教育委員会会議の運営及び運営改善	A	評価の視点	・予定した定例会（12回）全てを開催し、案件88件（議決事項20件・報告事項35件・その他事項33件）を審議した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により視察を行えなかった。 ・定例会開催前の資料配布を求め、議事内容の理解を深めた上で会議に臨んだ。
					改善の視点	・議案の円滑かつ正確な審議に努めるとともに、必要最低限かつ専門用語を排した分かりやすい資料の提供を事務局に求める。
		2	教育委員会の会議の公開、市民への情報発信	A	評価の視点	・定例会の公開を基本としたが、傍聴は0人だった。 ・定例会の開催日時や会議録を速やかに市ホームページに掲載し、会議内容の公開に努めた。
					改善の視点	・定例会の開催日時や会議録を、告示板への掲示や市ホームページへの掲載により遅滞なく周知する。
		3	教育委員会と市長及び市長部局との連携	A	評価の視点	・総合教育会議を開催し、東小・西小・旭小の3校統合先の校舎について協議を行った。また、学期ごとに、市長と教育の条件整備等の施策等について意見交換を行った。
					改善の視点	・教育委員会側からも必要に応じて総合教育会議の開催を要請するとともに、継続して市長と意見交換を行うなど、更なる連携を深め本市教育行政の推進を図る。
		4	教育委員の自己研さん	－	評価の視点	・例年は、教育委員の出席を要する会議や意見交換会に積極的に出席し、市内及び他市町の情報収集を行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、会議や意見交換会等がほとんど開催されなかった。
					改善の視点	・引き続き、教育現場の実情を知るため、積極的に足を運び関係者との意見交換を行うとともに、コロナ禍においても可能な自己研さんの方法を検討・実施していく。 ・研修効果を上げるため、研修内容を考慮し参加時期を決定する。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・予定した定例会（12回）全てを開催し、案件76件（議決事項24件・報告事項30件・その他事項22件）を審議した。 ・認定こども園への視察を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった。 ・定例会開催前の資料配布を求め、議事内容の理解を深めた上で会議に臨んだ。
	改善の視点	・議案の円滑かつ正確な審議に努めるとともに、必要最低限かつ専門用語を排した分かりやすい資料の提供を事務局に求める。
A	評価の視点	・定例会の公開を基本としたが、傍聴は0人だった。 ・会議録を速やかに市ホームページに掲載し、会議内容の公開に努めた。
	改善の視点	・定例会の開催日時や会議録を、告示板への掲示や市ホームページへの掲載により遅滞なく周知する。
A	評価の視点	・総合教育会議を開催し、伊東市立学校の適正規模及び配置について協議を行った。また、学期ごとに、市長と教育の条件整備等の施策等について意見交換を行った。
	改善の視点	・教育委員会側からも必要に応じて総合教育会議の開催を要請するとともに、継続して市長と意見交換を行うなど、更なる連携を深め本市教育行政の推進を図る。
A	評価の視点	・教育委員の出席を要する会議や意見交換会に積極的に出席し、市内及び他市町の情報収集を行った。
	改善の視点	・引き続き、教育現場の実情を知るため、積極的に足を運び関係者との意見交換を行う。 ・研修効果を上げるため、研修内容を考慮し参加時期を決定する。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
教育総務課	教育委員会の活動	5	園、学校及び教育施設に対する支援並びに条件整備	―	評価の視点	・例年は、教育委員それぞれが担当地区の学校等を訪問し、関係者と意見交換を行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校等への訪問が行えなかった。
					改善の視点	・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、可能であれば学校教職員との円滑な意見交換を行えるよう、学校と調整を図る。 ・集約した意見は定例会で積極的に発言する。
	教育委員会が管理・執行する事務	6	教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること	A	評価の視点	・「伊東市の教育」の発行や、新年度の事業執行に当たり、教育行政の基本方針等の協議を行った。
					改善の視点	・日々の活動で得た教育現場の意見を方針に反映させる。
		7	教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること	A	評価の視点	・規則3本、要綱2本を制定した。 ・規則2本を改正した。
					改善の視点	・例規の迅速かつ的確な審議を心がける。
		8	教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること	A	評価の視点	・令和3年4月1日付けで伊東市立学校設置条例の一部を改正し、川奈小学校を廃止した。（川奈小学校と南小学校を統合した。）
					改善の視点	・伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針を踏まえ、適正化を推進する。
		9	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること	A	評価の視点	・伊東市が抱える課題を解決できる教職員の配置を要望した。
					改善の視点	・教師の適性を把握しつつ本市の課題解決を図るための適正配置とともに、教職員の一層の服務規律の遵守を求める。
		10	地方教育行政組織及び運営に関する法律第26条に規定する教育委員会の管理及び執行の状況について点検及び評価に関すること。	A	評価の視点	・PDCAサイクルを意識し、点検評価の実施時期を早め、次年度の事業内容に反映させた。
					改善の視点	・点検評価方法による改善の度合いを見極めながら、新たな修正点を探る。 ・自己評価を次年度の事業内容に反映させる。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・教育委員それぞれが担当地区の学校等を訪問し、関係者と意見交換を行った。 ・訪問した際の状況や意見交換の内容を定例会で報告し、教育委員会内での共有を図った。
	改善の視点	・学校教職員との円滑な意見交換を行うため、学校と調整を図った上で訪問するよう努める。 ・集約した意見は定例会で積極的に発言する。
A	評価の視点	・「伊東市の教育」の発行や、新年度の事業執行に当たり、教育行政の基本方針等の協議を行った。
	改善の視点	・日々の活動で得た教育現場の意見を方針に反映させる。
A	評価の視点	・規則2本、規程1本、要綱2件を制定した。 ・規則2本、規程1本を改正した。 ・要綱1本を廃止した。
	改善の視点	・例規の迅速かつ的確な審議を心がける。
A	評価の視点	・法的な審議事項とすべき案件はなかったが、総合教育会議において学校の適正規模及び配置を議題とし、市長と協議を行った。
	改善の視点	・常に保護者や園及び学校の現状の把握に努めるとともに、小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針案をまとめる。
A	評価の視点	・伊東市が抱える課題を解決できる教職員の配置を要望した。
	改善の視点	・教師の適性を把握しつつ本市の課題解決を図るための適正配置とともに、教職員の一層の服務規律の遵守を求める。
A	評価の視点	・PDCAサイクルを意識し、点検評価の実施時期を早め、次年度の事業内容に反映させた。
	改善の視点	・点検評価方法による改善の度合いを見極めながら、新たな修正点を探る。 ・自己評価を次年度の事業内容に反映させるため、作成時期の見直しを図る。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
教育総務課	教育委員会が管理・執行する事務	11	地方教育行政組織及び運営に関する法律第29条（市長が教育に関する予算・事務について議会へ議決を求める際に教育委員の意見を聞くこと）に規定する意見の申出に関すること。		A	評価の視点	・予算要求の内容報告を教育委員会事務局から受け、定例会の中で教育委員会の意見を明らかにした。
						改善の視点	・総合教育会議等も活用し、第29条に定める議案に対する意見を申し出る。
		12	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。		A	評価の視点	・重点化事業及び新規事業の予算要求について、定例会で審議を行った。
						改善の視点	・課題の解決につながる事業・予算であるか、という視点に立った審議を心掛ける。
		13	公民館運営審議会委員兼社会教育委員、文化財保護審議会委員及び図書館協議会委員の委嘱に関すること。		A	評価の視点	令和2年4月定例会にて公民館運営審議会委員兼社会教育委員1人の委嘱に関する審議を行った。
						改善の視点	・各会の活動報告を求めるなど、活動内容の把握に努める。
		14	学齢児童生徒の就学すべき区域の設定及び変更に関すること。		A	評価の視点	・東小、西小、旭小の3校統合後の学区について学区検討委員会を開催し、適正な学区のあり方を検討した結果、3校の学区を統合後の学校の学区とすることに決定した。ただし、統合に伴い通学路が変更となり、通学距離や通学路の安全上の問題等により指定校の変更を希望する場合は、指定校制度を柔軟に運用していくこととした。
						改善の視点	・伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針を踏まえ、適正化の推進に合わせ、区域の変更を検討していく。
	教育環境の整備	15	学校施設の環境整備	学校施設の環境整備	A	評価の視点	・学校現場から要望のあった修繕案件に対して、実施可能なものは速やかに対応するとともに、長期的な対応が必要な案件については改修計画に基づいた学校設備の維持管理を行った。 ・次の改修工事を行い、学校施設の環境改善・安全対策を図った。 【屋内運動場改修】富戸小 ・老朽化した施設など、小学校179件・1,944万円、中学校111件・1,470万円の修繕を実施した。 ・【評価指標：トイレの改修済学校数　令和2年度目標：15校　実績：13校】
						改善の視点	・当初予算に加え生活環境向上対策予算も活用しながら、緊急性・危険性の高い案件から修繕を実施し、子どもたちの安全を守る。 ・修繕では対応できない案件については、長寿命化に配慮した工事を計画的に実施し、安心・安全な学校環境の整備を図る。 ・東小・西小・旭小の3校統合の統合先である東小校舎について、統合に向けた改修を行っていく。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・予算要求の内容報告を教育委員会事務局から受け、定例会の中で教育委員会の意見を明らかにした。
	改善の視点	・総合教育会議等も活用し、第29条に定める議案に対する意見を申し出る。
A	評価の視点	・重点化事業及び新規事業の予算要求について、定例会で審議を行った。
	改善の視点	・課題の解決につながる事業・予算であるか、という視点に立った審議を心掛ける。
A	評価の視点	平成31年4月定例会にて公民館運営審議会委員兼社会教育委員10人の委嘱に関する審議を、平成31年9月定例会にて文化財保護審議会委員9人の委嘱に関する審議を行った。
	改善の視点	・各会の活動報告を求めるなど、活動内容の把握に努める。
－	評価の視点	・審議すべき案件はなかった。
	改善の視点	・伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針を踏まえ、適正化の進捗に合せ、区域の変更を検討していく。
A	評価の視点	・学校現場から要望のあった修繕案件に対して、実施可能なものは速やかに対応するとともに、長期的な対応が必要な案件については改修計画に基づいた学校設備の維持管理を行った。 ・次の改修工事を行い、学校施設の環境改善・安全対策を図った。 【トイレ改修】旭小 【防水工事】宇佐美小 【プール改修】南小 【普通教室空調】全校 ・老朽化した施設など、小学校206件・3,070万円、中学校114件・1,927万円の修繕を実施した。 ・【評価指標：トイレの改修済学校数　元年度目標：13校　実績：13校】
	改善の視点	・当初予算に加え生活環境向上対策予算も活用しながら、緊急性・危険性の高い案件から修繕を実施し、子どもたちの安全を守る。 ・修繕では対応できない案件については、長寿命化に配慮した工事を計画的に実施し、安心・安全な学校環境の整備を図る。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
教育総務課	教育環境の整備	16	給食センターを活用した食育・地産地消の推進	安全な学校給食の提供	A	評価の視点	・コロナウイルスの感染拡大を予防するため、学校給食の食環境の見直しを図り、学校給食が再開する6月に向けて単独校調理場の調理従事者を対象に衛生管理と感染症予防の対策について研修を行った。また、「研究授業方式による衛生管理自己チェック表」を用い、栄養士が自校の調理場の衛生状況を把握、不備等を改善した。 ・人体に影響を及ぼす事故発生防止のため、日頃の作業において調理器具、機械類の点検をこまめに行った。 ・市内統一のアレルギー対応方針に基づき、安全な学校給食提供が図られるよう情報交換し、体制の強化に努めた。 ・食材の放射能検査については、使用する食材の内、2検体を専門検査機関に依頼し、安全性を確認した。 ・【評価指標】:異物混入・アレルギー等の給食を原因とした人体に影響を及ぼす事項の発生件数 R2年度目標0件　実績0件
						改善の視点	・衛生管理・感染症の予防については、研修を行い常に最新の情報を栄養士等において共有し、さらに安定的な学校給食提供に努める。 ・アレルギーについても、対象者以外での発生や食物依存性運動誘発アレルギー等の対応に係る情報を共有し、的確な対策を図る。
		17		魅力ある学校給食の提供	D	評価の視点	・ふるさと給食による特色ある献立、地場産物を利用した献立及び伝統食の継承献立の作成を図るとともに、食育に資する魅力ある手作りのおいしい給食の提供を心掛け、残食量の減少の継続に努めた。 ・学校給食摂取基準の一部改正によって新しい基準量での献立作成ができるよう、レシピ内容の見直し、市内全体で献立データーの共有ができるよう見直しを実施した。 ・市の健康保養地づくり実行委員会が毎年開催している野菜レシピコンテストにおいて学校給食賞に選ばれた「さばキーマカレー」を学校給食に提供した。 ・2月23日の「ふじさんの日」にちなんで、県内一斉ふじっぴー給食を実施。静岡県の産物を使用した「緑茶まぜごはん」「さばのねぎソースがけ」「静岡野菜のおかかあえ」「静岡野菜たっぷり豚汁」「はるみ」を提供した。 ・【評価指標】学校給食における残食率R2年度目標:前年度実績(4.93%)未満　実績:6.24% ※原因　近年、5%前後で推移してきた実績から、R2年度における急激な数値上昇は、コロナウイルス感染予防対策の影響があったと考えられる。
						改善の視点	・学校給食摂取基準にあった充足率が満たされるよう実績量を見直し、献立作成の際に反映できるよう検証をする。 ・献立作成会議において、新メニューの開発や食材の提案を行い更なる学校給食の充実に努め、市内全ての給食調理場において魅力ある学校給食の提供を図る。 ・献立作成には、残食量データーの活用や各コンクール受賞献立の積極的な採用を図り、より魅力ある学校給食の提供に努め、クッキングタイム(給食レシピ)を発行をし、家庭への啓発を図りたい。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・県教委による「学校給食の衛生管理等に関する調査研究(指導者等派遣)事業」で、衛生管理、調理作業について指導を受け、市内調理場においても指導内容を共有し、安全な給食運営及び衛生管理の徹底を図った。 ・市と委託会社が連携し、野菜裁断機の刃の研摩や調理器具、機械類の点検をすることで、給食を原因とした人体に影響を及ぼす事故の発生を防ぐことが出来た。 ・市内統一のアレルギー対応方針に基づき、安全な給食提供が図られた。学校給食運営委員会では、医師から管理指導表や面談等のアレルギー対応に関する指導を受けたり、アレルギー対策委員会で意見交換をしたりすることで、更なる安全体制の確立に努めた。 ・下田高校に設置してある県の専門機器を活用した給食食材の放射性物質検査を平成24年度から引き続き実施し、いずれも検出はされなかった。(全8回で32食材の測定を実施) ・【評価指標:異物混入・アレルギー等の給食を原因とした人体に影響を及ぼす事項の発生件数 R元年度目標:0件 実績0件】
	改善の視点	・最新の衛生管理、感染症の予防対策等を研修し、さらに安定的な給食提供が図れるよう給食管理に努める。また、食物アレルギーについては、対象者以外での発生や食物依存性運動誘発アナフィラキシー等の対応について情報を共有し、的確な対策を図る。
B	評価の視点	・献立作成会議では、ふるさと給食の日、地場産物及び伝統食の継承献立、食育推進に資する魅力ある手作りのおいしい給食の提供を心掛け残食量の減少に努めた。 ・学校給食摂取基準が一部改正されたため、新しい基準量で献立作成が出来るよう、一部レシピの見直しを行い、データの入替え作業を実施した。 ・市の健康保養地づくり実行委員会が毎年開催している野菜料理レシピコンテストの学校給食賞「豆腐でヘルシー！ニラとじゃこの簡単チヂミ」を市内の学校給食で提供した。 ・静岡県がH28年度に制定した「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例(静岡茶愛飲条例)」の取組の一環で、茶葉を使った献立「茶葉入りつくね」「魚のお茶揚げ」「お茶マフィン」を市内各校で定着メニューとし、地産地消及び食育の推進を図った。 ・【評価指標:給食における残食率 R元年度目標:前年度実績(4.79%)未満　実績:4.93%)
	改善の視点	・学校給食摂取基準の充足率が満たされるよう、実績量を考慮し献立作成に反映するよう検証に努める。 ・献立作成会議で、新メニューの開発や食材の提案を行い、学校給食の充実に努め、市内全ての給食室で魅力ある学校給食の提供を図る。 ・献立作成には、残食量データの活用や各コンクール受賞献立を積極的に取り上げるなど、より魅力ある学校給食の提供に努め、家庭へはクッキングタイム(給食レシピ)の発行により啓発を図りたい。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
教育総務課	教育環境の整備	18	給食センターを活用した食育・地産地消の推進	学校給食を活用した食育・地産地消の推進	A	評価の視点	・小中学校において栄養教諭を中心に年間計画を作成することで体系的な食育指導の実現、健全な食習慣づくりの推進に継続して取り組んだ。 ・地産地消推進事業については、平成28年度から保護者が負担している給食費とは別に市が地産地消推進事業費として経費を負担する取り組みを実施。地産地推進事業費を活用することで、サザエ、伊勢えび、和牛等の高価な食材や地元伊東産の野菜や果物を市内で調整し計画的に導入した。 ・【評価指標：給食食材を納入する地元農家数R2年度目標：前年実績（7件）以上）　実績：9件】
						改善の視点	・食育は、栄養教諭を中心にして各栄養職員が年間計画や目標を設定し、情報交換により成果が得られたかを振り返りることで、より体系的な指導の実現を目指す。 ・地産地推進事業は、積極的な活用と啓発活動により事業の更なる周知を図りたい。また、市内の食材事業者、農家などに協力を求め、地場産物として活用できる食材の拡充に今後も努めていきたい。
		19	ICT教育環境整備の充実	教育用パソコン整備	A	評価の視点	・国が推進するGIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台の端末を整備した。【評価指標　令和2年度目標値 3.6人/台　実績：1人/台】
						改善の視点	・国が推進するGIGAスクール構想に基づき、1人1台の端末を整備した。今後は、端末を有効に活用できるよう研修等を行っていく。 ・中学校のパソコン室の機器が更新を迎えるが、1人1台端末整備を踏まえ、機器の構成・パソコン教室の使用方法等を決定する。
		20		無線LAN整備	A	評価の視点	・国が推進するGIGAスクール構想に基づき、川奈小を除く14校に校内LAN（無線LAN）を整備した。 ・【評価指標：無線LAN整備学校数　令和2年度目標値：15校　実績：14校】
						改善の視点	・GIGAスクール構想に基づき、校内LAN（無線LAN）を活用し、1人1台端末の有効利用を図る。
		21		ICT機器の整備	A	評価の視点	・中学校の全普通教室及び一部の普通教室に電子黒板を68台整備した。 【評価指標：普通教室への大型表示装置（テレビ等）の整備数　令和2年度目標：151台　実績：151台（達成率100%）】
						改善の視点	・小学校の特別教室等への電子黒板導入を検討する。 ・その他のICT機器についても、国の整備方針を踏まえ、学校との協議の中で、本市にとって真に必要なICT機器の構成を検討し、計画的に整備を進めていく。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・小・中学校において栄養教諭を中心に年間計画を作成し、体系的な指導の実現、生活習慣づくりの推進を目指した。 ・地産地消推進事業については、平成28年度から保護者が負担する給食費とは別に市が地産地消推進事業費として経費を負担する取り組みを実施。地産地消推進事業費の活用により、サザエ、伊勢えび、和牛等の高価な食材や伊東産の野菜、果物を市内全校で調整し計画的に導入。また、11月には学校給食感謝の日を設定し、生産者と児童生徒が交流できる場とし、事業の意図を明確にすることが出来た。 ・【評価指標：給食食材を納入する地元農家軒数　R元年度目標：前年実績（4件）以上　実績：7件】
	改善の視点	食育は栄養教諭を中心に、各栄養職員が年間計画や目標を設定し、指導媒体の作成等、情報交換し、効果的な成果が得られたか振り返ることで、より体系的な指導の実現を目指す。地産地消推進事業については、積極的な活用と啓発活動により事業の更なる周知を図り、地場産物として活用できる食材の拡充に努めていきたい。
B	評価の視点	・令和元年度における教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は6.3人であった。【評価指標　令和元年度目標値 4.2人】 ※国が示したGIGAスクール構想においては1人1台端末の整備を目標としている。
	改善の視点	・国が推進するGIGAスクール構想に基づき、1人1台端末の整備推進する。 ・中学校のパソコン室の機器が更新を迎えるが、1人1台端末整備を踏まえ、機器の構成・パソコン教室の使用方法等を決定する。
D	評価の視点	・国の示すGIGAスクール構想に基づき、校内LAN（無線LAN）整備に向けた予算を令和元年度3月補正予算に計上 ・既に整備済みの中学校の校内LAN（有線）も再構築を行う。 ・【評価指標：無線LAN整備学校数　令和元年度目標値：10校　実績：2校】
	改善の視点	・GIGAスクール構想に基づき、校内LAN（無線LAN）整備を推進する。
B	評価の視点	・小学校の全普通教室（106教室）に電子黒板と授業用ノートパソコンを106台整備した。また、書画カメラ69台も併せて整備した。 【評価指標：普通教室への大型表示装置（テレビ等）の整備数　令和元年度目標：150台　実績：106台（達成率70.7%）】
	改善の視点	・中学校への電子黒板導入を検討する。 ・その他のICT機器についても、国の整備方針を踏まえ、学校との協議の中で、本市にとって真に必要なICT機器の構成を検討し、計画的に整備を進めていく。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
教育総務課	教育環境の整備	22	少子化や地域の特性に対応した活力ある学校づくりの検討	小中学校の規模と配置の適正化	A	評価の視点	・令和元年度策定の「伊東市立小中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」に基づき、令和3年4月1日に川奈小学校と南小学校の統合を実現した。 ・川奈小学校閉校に際しては、学校統合地域協議会による具体的協議の結果を踏まえ、安全、安心な通学実現を目的としたバス待合スペースの整備や児童の心のケアを目的とした事前交流を複数回に渡って開催した。 ・東小学校、西小学校、旭小学校の3校統合に向けて、統合後学校の基本構想を策定し、統合後学校の概要について現在の3校関係者に対する説明会を開催した。 ・【評価指標：市民意向調査の実施　令和2年度目標：調査実施　実績：保護者説明会等の実施】
						改善の視点	・「東小・西小・旭小3校統合に向けた基本構想」を着実に推進していくとともに、基本方針に示したその他の学校についても、令和5年度以降の適正化を視野に、引き続き地域の特性に対応した、活力ある学校づくりを目指していく。
幼児教育課	教育の充実（保育園）	23	多様な保育事業の実施	休日保育等の特別保育事業の実施	B	評価の視点	・休日保育は利用の少ない保育園1園を除き、全園で実施した。
						改善の視点	・休日保育は利用の少ない保育園で休止を検討する。 ・病児保育（体調不良児対応型）は、令和2年4月1日から新たに宇佐美保育園で開設し、市内8施設で実施している。 ・保護者アンケートを踏まえ、一時預かり事業、延長保育の充実について検討する。
		24	地域における子育て支援拠点施設の整備	地域子育て支援拠点事業の充実	B	評価の視点	・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めて開所したことから、子育て支援センター（7か所）を利用した人数が約1万2千人となり、大幅に減少した。
						改善の視点	・感染症対策を講じながら、保護者の育児相談や子育てを楽しめるような行事等を実施し、支援の充実を目指す。
		25	待機児童解消に向けた取組の実施	待機児童解消計画の推進	B	評価の視点	・令和3年4月1日現在の待機児童数は1人で、昨年と比較して4人の減となった。
						改善の視点	・保育士の確保や保育コンシェルジュによる情報提供・相談業務に努めるなど、待機児童の早期解消を目指す。
		26	障がい児童等への支援	障がい児保育の充実	A	評価の視点	・全保育園への臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課保健師との連携により、発達に心配のある児童の支援体制を充実させた。 ・可能な限り障害のある児童の受入れを行った。
						改善の視点	・引き続き臨床心理士による巡回相談を実施して、個々の発達に合ったきめ細かい保育の提供や、保育園、保護者、及び必要に応じて医療機関に繋げるなど、関係機関との連携体制の強化を図る。 ・可能な限り障害のある児童の受入れを行っていく。

【令和元年度】

評価		評価及び改善の視点
A	評価の視点	・教育問題懇話会からの答申を踏まえ、令和元年8月に「伊東市立小中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」を策定した。 ・方針には「令和3年4月に川奈小学校と南小学校を統合」と「令和5年4月に東小学校、西小学校と旭小学校の3校を1校に統合」の2つの具体的方策を掲げるとともに、その他の学校についても今後、改めて後期の方針として対応を掲げていく必要性を示した。 ・方針に掲げた2つの具体的方策のうち、令和3年4月の川奈小学校と南小学校の統合については、令和元年12月に両校のPTA、地域住民等で構成する学校統合地域協議会を設立し、令和3年4月1日からの統合に向けた課題等の具体的な協議に入った。
	改善の視点	・方針に掲げた2つの具体的方策のうち令和5年4月の3校の統合については、学区が広範囲に広がり、多くの行政区が関わることに加え、昨年度に各校で実施した保護者説明会でも統合に伴う学区設定の見直しを求める意見が多く出されたことから、学区の見直しには慎重な検討が必要であり、今後、保護者や地域に対する周知と意見交換を進めた上で地域協議会を立ち上げていく。
B	評価の視点	・休日保育は利用の少ない保育園1園を除き、全園で実施した。
	改善の視点	・休日保育は利用の少ない保育園で休止を検討する。 ・病児保育（体調不良児対応型）を宇佐美保育園で令和2年4月1日から開設準備 ・保護者アンケートを踏まえ、一時預かり事業、延長保育の充実について検討する。
B	評価の視点	・令和元年度に子育て支援センター（7か所）を利用した人数が約2万7千人となった。
	改善の視点	・子育て世代が子育てを楽しめるよう支援の充実を目指す。
B	評価の視点	・令和2年4月1日現在の待機児童数は5人で、昨年と比較して6人の減となった。
	改善の視点	・保育室の改修による施設整備の実施や保育士の確保に努めるなど、待機児童の早期解消を目指す。
B	評価の視点	・全保育園への臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課保健師との連携により、発達に心配のある児童の支援体制を充実させた。 ・可能な限り障害のある児童の受入れを行った。
	改善の視点	・相談対象児童の増加や状態が複雑化する中、臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課との連携により、発達に心配のある児童の支援体制の充実を図る。 ・可能な限り障害のある児童の受入れを行っていく。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
幼児教育課	教育の充実（保育園）	27	認定こども園（幼保一体化施設）の整備	認定こども園の整備	C	評価の視点	・認定こども園を視野に入れ、幼稚園・保育園の再編に向けた会議・検討を行った。
						改善の視点	・幼稚園・保育園の再編に向けて、施設環境や保育ニーズの調査・研究を行う。 ・認定こども園の視察、職員の勉強会を実施する。
		28	食育の推進	食への興味・関心を育てる取組の実施	B	評価の視点	・新型コロナウイルス感染症対策を講じながらクッキング保育の内容を見直して行い、食材、栽培、調理を通じて食への興味、関心を育てる取組を行い、食べ物の有りがたさを感じさせる。
						改善の視点	・栄養士による発達の段階に応じた食育を実施するとともに、季節の食べ物や地場産品について配付物・掲示物などを通じて教えていく。
	教育の充実（幼稚園）	29	幼稚園教育の充実	幼児教育向上のための研修会への参加	A	評価の視点	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年実施している大人数による研修・講演や実技研修等は中止せざるを得なかったが、教頭研修や経験年数に応じた研修等、少人数グループによる開催を心掛け、コロナの感染状況を見極めながら可能な範囲での参加に努めた。 【評価指標】 ・幼稚園での教育内容に対する満足度　97．3% （R2年度実施の保護者アンケート「お子さんは園の教育目標に近付いていますか」に対し「はい」又は「どちらかと言えばはい」に回答した数）
						改善の視点	・園生活で特別な支援が必要な園児が増えていることに伴い、支援員の数も増えている中、支援員に求められる対応や心構え等について、毎年度夏休み期間に研修を実施しているが、これを年度当初に実施することで、園児にとって不安定な1学期からしっかりした支援に繋がるものと考えている。
		30	保護者とともに子どもの育ちを支える支援の推進	幼稚園での預かり保育の実施	B	評価の視点	・市立幼稚園7園中5園で預かり保育を実施。利用者の73%が現状の実施内容に対し「満足」と回答しており、園児のことをよく分かっている先生がいる環境の下、幼稚園での生活を踏まえた保育の提供が可能な幼稚園での預かり保育実施の重要性が確認できた。 【評価指標】 ・幼稚園での預かり保育に対する満足度　73% （R2年度実施の預かり保育利用者アンケート「現在の預かり保育に満足していますか」に対し「はい」と回答した数）
						改善の視点	・預かり保育への満足度をより高めるため、今後は、アンケート調査で多くの保護者が希望している夏休み以外の長期休業中への実施に向け、検討していく必要がある。現在、預かり保育事業に従事する職員は、契約更新を必要とする職員が中心となって運営しているため、事業の実施期間や時間を今より拡大するには、幼稚園教諭又は保育士を専属配置するなど、受入体制の充実を図ることが必要であると考える。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
C	評価の視点	・認定こども園を視野に入れ、幼稚園・保育園の再編に向けた検討を行った。
	改善の視点	・幼稚園・保育園の再編に向けて、施設環境や保育ニーズの調査・研究を行う。 ・認定こども園の視察、職員の勉強会を実施する。
B	評価の視点	・クッキング保育を行い、食材、栽培、調理を通じて食への興味、関心を育てる取組を行い、食べ物の有りがたさを感じさせる。
	改善の視点	・栄養士による発達の段階に応じた食育を実施するとともに、季節の食べ物や地場産品について配付物・掲示物などを通じて教えていく。
A	評価の視点	・経験年数や年齢に応じた研修会の参加、園内研修、実質的な研修会参加者による報告会、市立幼稚園研究協議会主催による講演会の開催により、幼児教育向上が図られた。
	改善の視点	・研修による情報共有や、より専門的な研修の受講により、幼児教育向上を進める。
A	評価の視点	・伊東、宇佐美、八幡野幼稚園、荻幼稚園、南幼稚園富士見分園の5園で預かり保育を開始した。預かり保育準備委員会を開催し、各園での実施状況の確認や課題を検討した。
	改善の視点	伊東・宇佐美、八幡野、荻幼稚園、南幼稚園富士見分園の5園での実施状況により、利用希望者の受入体制及び円滑な事業実施のため、教諭による預かり保育事業の実施を図る。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
幼児教育課	教育の充実（幼稚園）	31	保護者とともに子どもの育ちを支える支援の推進	特別支援員の配置	A	評価の視点	・園生活で特別な支援が必要な園児が増えていることに伴い、必要な支援員を配置している。令和2年度は市内7園で17人を配置し、園や園児の状況に併せて適切な配置を行った。 【評価指標】 ・園児一人一人に応じた教育の実施割合　97．7% (R2年度実施の保護者アンケート「園は一人一人に応じた指導や対応をしていますか」に対し「はい」又は「どちらかと言えばはい」に回答した数)
						改善の視点	・園児一人一人の発達の特性に応じた適切な教育及び支援を目指し、毎年度夏休み期間に支援員に求められる対応や心構え等について研修を実施しているが、これを年度当初に実施することで、園児にとって不安定な1学期からしっかりした支援に繋がるものと考えている。
		32	集団保育を実施するための環境整備	複式クラス幼稚園の統合	A	評価の視点	・令和元年度に複式学級となった鎌田、南幼稚園を令和2年3月31日をもって休園したため、令和2年度は複式学級による園はなかった。 【評価指標】 ・複式学級幼稚園数　R1「2園」→R2「0園」 ・幼稚園が楽しいと思う子どもの割合　99．0% (R2年度実施の保護者アンケート「園生活は、お子さんにとって楽しいものになっていますか」に対し「はい」又は「どちらかと言えばはい」に回答した数)
						改善の視点	・園児数は年々減少する中、園での生活等についての保護者アンケートを引き続き実施することにより、保護者ニーズを把握し、その内容を一つでも実現することで保護者が選びたくなる幼稚園に近付くよう、その実現可能性を検討していく必要がある。 ・その上で、幼稚園への入園園児数と認定こども園の動向を見ながら、今後も引き続き集団保育に必要な適正規模と適正配置に向けた取組を進めていく必要がある。
		33	子育てニーズに応じた幼保連携の推進	公立幼稚園の認定こども園への移行	B	評価の視点	・民間事業所にあっては令和3年度に市内初の認定こども園(幼保連携型)を設置するとともに、市においても令和2年度に公立幼稚園・保育園のあり方検討委員会を立ち上げ、公立の認定こども園設置に向けて検討に入った。 【評価指標】 ・公立幼稚園・保育園のあり方検討委員会:2回開催 (課題の洗い出しに留まり、今後の方向性に関する協議に至らなかったことによる評価「B」)
						改善の視点	・幼児教育と保育に対する保護者ニーズに応えるために、これからの本市にどういった子育て施設が必要なのかということを検討する必要があり、その検討も少子化が進む中では、市だけで検討するのではなく、公私が連携して検討していく体制が必要となる。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	支援を必要とする園児の状況により特別支援員を配置している。全園に19人を配置し、園や園児の状況に併せて適切な配置を行った。
	改善の視点	・有資格者の特別支援員の確保、研修の実施、関係機関と連携し、園児一人一人の発達の特性に応じた適切な教育及び支援を目指す。
C	評価の視点	・1園当たりの平均人数44．7人と目標値の50人に達していないが、他園との交流により集団保育を実施する環境整備に努めた。また、集団保育確保が困難となった鎌田・南幼稚園において、保護者説明会を開催し、理解を求め令和2年3月31日をもって休園とした。
	改善の視点	・幼稚園の統合や他園との交流により集団保育を実施する環境を整備し、保育の質の向上を目指す。
B	評価の視点	・幼稚園園長による認定こども園の視察により、管理・運営状況に係わる情報収集を図った。
	改善の視点	・保育園及び幼稚園のあり方を検討し、少子化による幼稚園の統廃合を含めた認定こども園の移行に努める。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
幼児教育課	教育の充実（幼稚園）	34	子育てニーズに応じた幼保連携の推進	保育園との人事交流	B	評価の視点	・幼稚園教諭を対象にした公立の認定こども園設立を見据えた保育園保育研修等の開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止もあって令和2年度も実施は出来ず、双方の職員人事交流に留まった。 【評価指標】 ・公立幼稚園と保育園から各1人がお互いの職場視察を実施 （当初予定していた研修の一部が実施出来なかったことによる評価「B」）
						改善の視点	・幼稚園と保育園が互いの機能や役割を尊重し合い、将来設置を目指す公立の認定こども園が今よりも充実した施設となるためにも、幼稚園と保育園のそれぞれがより特色を持った園運営を心掛けるとともに、人事交流や合同研修などを通じて相互交流する体制が必要となる。
教育指導課	教育の充実（小・中学校）	36	園・学校の基盤づくり	特色を生かした教育課程の編成	B	評価の視点	・子供の実態や発達段階に応じた教科横断的な視点をもって、地域資源を有効に活用した特色ある教育活動を展開した。
						改善の視点	・新たな地域資源の開発を進め、社会に開かれた教育課程の構築を図る。
		37		園・学校と地域との信頼関係強化	B	評価の視点	・学校行事等を通して信頼関係を強化するための取組を推進するとともに積極的に地域に情報を公開した。
						改善の視点	・コミュニティースクールの導入に向け、関係部会との連携を図りモデル校での取組を進める。
		38		美しく整った環境づくり	A	評価の視点	・感染症対策としての校内美化や、増加するICT機器の安全で整った管理を徹底した。
						改善の視点	・安全かつ学びに適した環境整備を進める。
		39		明るい挨拶の習慣化	B	評価の視点	・子供の自発的な取組を重視しながら、市一斉あいさつ運動や地域と関わる活動等を通じ、挨拶の意識が高まるよう指導した。
						改善の視点	・自然に挨拶を交わすことができるようにするとともに、学校内だけではなく、地域の大人等にも積極的に挨拶ができるようにしていきたい。
		40	「学びを楽しむ力」の育成	基礎的・基本的な知識及び技能の定着	B	評価の視点	・授業における多様な関わり合い方やICT機器の使用について、研究を進め、子供が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることができるよう授業改善を進めた。
						改善の視点	・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着が図られるよう、日々の授業の充実に努めるとともに、児童生徒が自ら学ぼうとする環境をつくるようにする。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・保育園との人事交流により、通常保育や預かり保育実施及び運営を通して、幼稚園保育の質の向上を図った。全教諭の保育園との人事交流は概ね終了した。
	改善の視点	・人事交流期間を長期化するなど、より専門的なスキルを習得し、幼保連携に対応した適切な支援を目指す。
B	評価の視点	・各校で地域の特色や子どもの実態に即した教育課程編成を考え、それらを生かした各校ならではの教育活動を行った。
	改善の視点	・教育活動を定期的に評価・反省し、改善を図りながらより一層、特色があり、充実した編成となるようにしたい。
B	評価の視点	・地域との信頼関係を強化するために「情報」「課題」「ビジョン」を共有し、パートナーとなる。
	改善の視点	・1年に1回以上は各学区で地域と情報交換を進める場をもち、より一層結びつきを深めながら「学校を核とした地域づくり」に努めたい。
B	評価の視点	・各校で清掃はもちろんのこと、学びに適した環境を整えられるようにした。
	改善の視点	・自分の学校・教室の環境整備に自発性をもって取り組めるように努めたい。
B	評価の視点	・明るい挨拶を自然に交し合うことができるよう、発達段階に応じ丁寧な指導を行った。
	改善の視点	・他学級、他学年、地域の大人など、学校内外を問わず日常生活の中で自然に挨拶を交わすことができるようにしていきたい。
B	評価の視点	・児童生徒が主体的に学び、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることができるよう、学び手の視点で授業を構想し実現しようとする取組が見られた。
	改善の視点	・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着が図られるよう日々の授業の充実に努め、その伸長を児童生徒と共有していけるようにする。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
教育指導課	教育の充実（小・中学校）	41	「学びを楽しむ力」の育成	発達段階に応じた適切な学習習慣の定着	A	評価の視点	・各学年に応じた家庭学習のあり方について、家庭に情報を提供するなど、自主学習の習慣化が図れるよう取り組んだ。
						改善の視点	・学力向上につながるよう、家庭と協力しながら学習の取組の充実を図っていきたい。
		42		主体性や学ぶ意欲・態度の育成	B	評価の視点	・授業の振り返りを大切にし、子供が自身の学びを実感し意欲を高めることができるよう取り組んだ。
						改善の視点	・日々の授業の充実を図るとともに、その伸長を児童生徒と共有していくことを大切にしたい。
		43	「人として備えたい力」の育成	規範意識の育成	A	評価の視点	・教科としての道徳の充実を図るとともに、すべての教育活動を通して全校体制で規範意識の育成を図った。
						改善の視点	・家庭や地域の協力も得ながら規範意識の育成に努めるとともに、保幼小の連携を密に行い、共通した規範意識を身に付けられるようにしていきたい。
		44		自己肯定感の育成	B	評価の視点	・様々な体験的な活動や地域・他学年とのふれあいなどを通して、子供が自分の良さに気付くことができるように働きかけた。
						改善の視点	・教職員と児童生徒の関係をより良いものにすること、また、児童生徒相互の信頼関係づくりに努め、支持的風土の醸成を進めていきたい。
		45		忍耐力（我慢強さ・粘り強さ）の育成	B	評価の視点	・保幼小連携の取組や教科外指導の柱として、発達段階に応じた忍耐力の育成を目指した指導を継続的に行っている。
						改善の視点	・学校生活の中で、集団を意識しながら活動し、一人一人が満足感や達成感を味わえるような指導・支援に努めたい。
		46		思いやりの育成	A	評価の視点	・「人間関係づくりプログラム」に全校体制で計画的に取り組んだり行事等で意図的に関わり合う場を設定したりして、他者を思いやる心の育成が意識されている。
						改善の視点	・学校教育全体を通じて思いやりの心が育成されるよう、周囲との関わり合いから他を認られるような機会を大切にしていきたい。
		47		社会性の育成	B	評価の視点	発達段階に応じて様々な人の視点をもって身の回りのこととかかわることができるよう教科横断的な学習を推進した。
						改善の視点	・同学年や異学年集団での関わりを学校生活の様々な場面で設定し、学校以外の地域との関わり充実させていきたい。
		48	「命を守る力」の育成	緊急時に対応する力の育成	B	評価の視点	・伊東市立学校防災対策方針に基づき、各校で学校防災計画を作成し、防災教育、避難訓練等を実施することで防災意識を高めた。
						改善の視点	・子供の安全意識を高めるような防災教育、避難訓練等の取組について模索したい。

【令和元年度】

評価		評価及び改善の視点
B	評価の視点	・全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果から、家庭学習の定着が図られていることが伺える。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という設問では、県平均を小学校で8.0P、中学校で3.0P上回った。
	改善の視点	・学力向上につながるよう、家庭と協力しながら取組の充実を図っていきたい。
B	評価の視点	・各教科等において、児童生徒が主体的に学ぶことができるよう、学び手の視点で授業を構想し実現しようとする取組が見られた。
	改善の視点	・日々の授業の充実を図るとともに、その伸長を児童生徒と共有していくことを大切にしたい。
B	評価の視点	・保幼小連携により、発達段階に応じた規範意識の育成について共有化され、浸透してきている。
	改善の視点	・保幼小の連携に加え、家庭や地域の協力も得ながら規範意識の育成に努めていきたい。
B	評価の視点	・児童生徒のよさを認め、励まし、伸ばしていこうとする個に応じた支援・指導が定着してきている。
	改善の視点	・教職員と児童生徒の関係に加え、児童生徒相互の信頼関係づくりに努め、支持的風土の醸成を進めていきたい。
C	評価の視点	・保幼小連携の柱として、発達段階に応じた忍耐力の育成を目指した指導を継続的に行っている。
	改善の視点	・学校生活の中で、児童生徒一人一人が満足感や達成感を味わえるような指導・支援に努めたい。
B	評価の視点	・「人間関係づくりプログラム」や行事等を活用し、意図的に関わり合ったり、相手の立場に立って思考したりする場を設定するなど、他者を思いやる心の育成が意識されている。
	改善の視点	・学校教育全体を通じて思いやりの心が育成されるよう、日頃から子供の姿を的確にとらえ、認め、励ましていくことを大切にしていきたい。
C	評価の視点	・生活科や総合的な学習の時間の中で、積極的に地域の方々との触れ合いを行い、丁寧に指導されている。
	改善の視点	・同学年や異学年集団での関わりを学校生活の様々な場面で設定したり、地域の大人との関わりを設定したりしていく必要がある。
B	評価の視点	・伊東市立学校防災対策方針に基づき、各校で学校防災計画を作成し、防災教育、避難訓練等を継続的に実施することで意識化が図る。
	改善の視点	・交通安全、生活安全、災害安全のそれぞれの視点で、自分の命を守るべき行動について、児童生徒が自分事として考えられるよう、指導の徹底を図りたい。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
教育指導課	教育の充実（小・中学校）	49	「命を守る力」の育成	健康的な生活習慣の定着	B	評価の視点	・新型コロナウイルス感染防止の観点から学校の衛生管理や免疫力を高める規則正しい生活について指導した。
						改善の視点	・各種ICT機器の健康面への影響について、正しい理解を子供や家庭に啓発し、家庭の協力のもと規則正しい生活習慣の定着を図る。
		50		望ましい食習慣の定着	B	評価の視点	・栄養教諭による食育授業や教科での正しい知識の習得を通して、発達段階に応じた、食の大切さ等について意識化が図られている。
						改善の視点	・学校給食指導や食育教育を充実させ、子供が自分自身の食生活に関心を深めるよう指導する。
		51		丈夫で健康な体の育成	C	評価の視点	・コロナ禍により計画的な外遊びの励行や体育の授業での運動量の確保、健康指導の充実を図った。
						改善の視点	・限られた運動機会を有効に生かすとともに、運動機会を自主的に工夫することにより健康を増進していけるようにしていきたい。
		52	教育的支援体制の充実	教育支援の充実	A	評価の視点	・様々な子供の個々の課題に対応できるよう中学校通級指導教室や適応指導教室の体制を整えた。
						改善の視点	・小学校統合や、様々な支援を要する児童生徒が増加している状況を見据え、引き続き支援体制の充実を図る。
生涯学習課	生涯学習活動の推進	53	生涯学習機会の提供	学習情報の収集発信	A	評価の視点	・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（2年度目標値250団体、実績296団体、目標達成）
						改善の視点	・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらうよう取り組む。
		54		生涯学習指導者の育成	B	評価の視点	・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。（2年度目標値100人、実績65人、達成度65%）
						改善の視点	・指導者の育成を図る機会を増やすため、SNSや広報誌等を活用し、生涯学習指導者の登録を促していく。
		55		生涯学習団体の情報提供	D	評価の視点	・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（2年度目標値22件、実績8件、達成度36%）
						改善の視点	・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
B	評価の視点	・「早寝・早起き・朝ごはん」についての指導が継続的に行われ、規則正しい生活を送ろうとする意識の向上が見られた。
	改善の視点	・家庭環境に差があるため、児童生徒一人一人に目を向け、必要に応じて関係機関と協力しながら個への支援の充実を図りたい。
B	評価の視点	・栄養教諭による食育授業の継続的な実施により、発達段階に応じて、食の大切さ等について意識化が図られている。
	改善の視点	・食育授業の継続的な実施により、望ましい食習慣の重要性について更に理解を深め、日常生活に生かせるようにしたい。
B	評価の視点	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が全体的に全国平均を上回っている。
	改善の視点	・生涯スポーツの視点を持ち、運動に親しむ態度を養い、児童生徒一人一人が体力向上に向けて自主的に取り組んでいけるようにしたい。
A	評価の視点	・特別支援教育支援員等の増員をはじめ、多人数学級支援員も増員し、様々な児童生徒の個々の課題に対応できるようにした。
	改善の視点	・様々な支援を要する児童生徒が増加している状況に対応できるよう今後も引き続き支援体制の充実を図りたい。
A	評価の視点	・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（元年度目標値235団体、実績288団体、目標達成）
	改善の視点	・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらうよう取り組む。
B	評価の視点	・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。（元年度目標値90人、実績63人、達成度70%）
	改善の視点	・指導者の育成を図る機会を増やすため、SNSや広報誌等を活用し、生涯学習指導者の登録を促していく。
B	評価の視点	・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（元年度目標値22件、実績17件、達成度77%）
	改善の視点	・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
生涯学習課	生涯学習活動の推進	56	市民の自発的生涯学習活動の推進	市民向け学習講座・教室の開催	―	評価の視点	・市民大学・いでゆ大学の延べ参加者数を指標としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により講座を中止、縮小して実施したため、目標値を大きく下回った。（2年度目標値1,700人、実績139人、達成度8%）
						改善の視点	・今後は新しい生活様式に即した対策を取りながら、各種講座の充実に努め、多くの方が受講したいと思うような講座の企画等、工夫を図る。
		57		生涯学習団体への支援	B	評価の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体数を指標とし、その団体を支援することにより地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進を図った。（2年度目標値250団体、実績181団体、達成度72%）
						改善の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体を支援し、多くの団体が活動できる環境整備を図っていく。
		58		学習成果を活かした地域における学習交流の推進	A	評価の視点	・3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターの自主的サークルの使用回数を指標とし、地域における学習交流の推進を図った。（2年度目標値延べ7,000回、実績延べ8,925回、目標達成）
						改善の視点	・地域における学習交流拠点である施設の利便性を高め、市民の自主的な活動を推進する。
		59		家庭教育に関する学習機会と内容の充実	―	評価の視点	・家庭教育学級のほか家庭教育支援アドバイザーを活用した家庭教育支援講座及び親学講座を実施し、家庭教育に関する学習機会の充実を図った。（2年度目標値17校、実績2校、達成度12%） ※家庭教育支援講座0回（0人）、親学講座2回（107人）
						改善の視点	・新型コロナウイルス感染症感染防止対策をとりながら、家庭教育学級の開催を呼びかけるとともに、家庭教育支援講座等の活用について、各校（園）と連携し、内容の充実を図る。
		60	図書館機能の充実	図書資料の充実	B	評価の視点	・図書資料を充実させるため、年間を通して計画的に図書資料を購入しているが、予算減などもあり目標値を達成できず前年度実績も下回った。（2年度目標値8,100冊、実績5,202冊、達成度64%）
						改善の視点	・計画的に予算を増やし購入数を上げていくことは不可欠であるが、「良書」を選書することの重要性も考えながら図書資料の充実につながる取り組みを行っていく。
		61		図書貸出利用人数の増加（前年度事業名：図書館貸出冊数の増加）	C	評価の視点	・貸出延人数を指標とし、利用者の利便性向上に努めたが、新型コロナ感染症拡大防止による休館日などの影響もあり目標人数に届かず、前年度実績も下回った。（2年度目標値85,000人、実績46,427人、達成度55%）
						改善の視点	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により利用者サービスを制限しなければならないが、企画展やイベントなどソフト事業を通じ、本の魅力をさらに伝えることで利用者の増加を図っていく。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・市民大学・いでゆ大学の延べ参加者数を指標とし、市民向け学習講座等をきっかけに参加者が新たなサークル等を作るなど、自主活動を広げ学習機会の充実を図った。（元年度目標値1,650人、実績1,506人、達成度91%）
	改善の視点	・これからも多くの市民の学習機会を創出するため、ニーズに合った学習メニューの設定のほか、開催場所や時間などを検討していく。
B	評価の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体数を指標とし、その団体を支援することにより地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進を図った。（元年度目標値248団体、実績149団体、達成度60%）
	改善の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体を支援し、多くの団体が活動できる環境整備を図っていく。
A	評価の視点	・3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターの自主的サークルの使用回数を指標とし、地域における学習交流の推進を図った。（元年度目標値延べ6,900回、実績延べ12,345回、目標達成）
	改善の視点	・地域における学習交流拠点である施設の利便性を高め、市民の自主的な活動を推進する。
A	評価の視点	・家庭教育学級のほか家庭教育支援アドバイザーを活用した家庭教育支援講座及び親学講座を実施し、家庭教育に関する学習機会の充実を図った。（元年度目標値14校、実績11校、達成度79%） ※家庭教育支援講座6回（156人）、親学講座6回（213人）
	改善の視点	・家庭教育学級の開催を呼びかけるとともに、家庭教育支援講座等の活用について、各校（園）と連携し、内容の充実を図る。
A	評価の視点	・図書資料を充実させるため、年間を通して計画的に図書資料を購入し、目標値は達成できなかったが、前年度実績は上回った。（元年度目標値7,390冊、実績5,320冊、達成度72%）
	改善の視点	・計画的な予算増のほか、書誌等の購入スポンサー制度の導入など図書資料の充実につながる取り組みを行っていく。
B	評価の視点	・貸出延人数を指標とし、利用者の利便性向上に努めたが、目標人数には届かなかった。（元年度目標値80,720人、実績56,772人、達成度70%）
	改善の視点	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により利用者サービスを制限しなければならないが、可能な限り、利用者サービスのさらなる向上を図っていく。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
生涯学習課	市民スポーツ活動の支援	62	スポーツ指導者の養成	スポーツ指導者の養成	D	評価の視点	・スポーツ少年団の指導者登録（コーチングアシスタント登録）に伴い、登録料が発生すること、新型コロナウイルス感染症拡大により団体の活動の縮小によって指導者数の減少傾向が加速している。（2年度目標値100人、実績44人、達成度44%）
						改善の視点	・新型コロナウイルス感染症感染防止対策をとりながら、活動を行っていくよう呼びかける。団体が活動しやすいように可能な限りサポートする。
		63		スポーツ大会や教室の実施	―	評価の視点	・按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会の参加人数を指標とした。令和2年度事業は新型コロナウイルス感染症の影響により大会自体を中止とした大会も多く、市民が気軽にスポーツに参加できる機会を提供できなかった。（2年度目標値11,000人、実績1,830人、達成度17%）
						改善の視点	・市民のスポーツへの関心は高いことから、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、参加機会の提供が増加できるよう努める。
		64		スポーツ環境の整備	A	評価の視点	・既存施設改修計画に基づく改修率を指標とし、市民が広く利用できる施設の環境整備を行っていく。（要望に対する取組率　2年度目標値100%、実績 要望1件・取組1回、達成度100%）
						改善の視点	伊東市民運動場の人工芝生化に向けてスポーツ振興くじ助成金の取得等、事業実施に向けた準備に努めた。結果として、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の安全・安心を守る施策を重視する観点から令和2年度事業中止としたが、令和3年度事業実施に向けた取組を進めると同時に、今後も施設整備の調査・研究に努める。
	歴史・芸術文化の振興	65	歴史、芸術文化に触れる機会の創出	市芸術祭の開催	―	評価の視点	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、音楽祭含む上演部門及び展示部門を中止とし、文学部門のみ実施した。（2年度目標値14,000人、実績127人、達成度1%）
						改善の視点	新型コロナウイルス対策を講じ、コロナ禍における開催方法を検討しながら、広報や事業内容に工夫を加え、市民の参加を促進していく。
		66		文化財等に関する講座・教室の開催	A	評価の視点	講座等の参加者数を指標とした。新型コロナウイルス感染症対策を行い、出前授業等を行った。（2年度目標100人、実績230人、目標達成）
						改善の視点	新型コロナウイルス対策を講じ、小中学校への出前授業や団体へのPR等を行い、文化財や歴史の普及に努める。
		67	歴史文化情報の発信	伊東市史に関する講座・講演会の開催	―	評価の視点	・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承する。2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により講演会等を実施できなかった。（2年度目標値240人）
						改善の視点	・市史編さん事業で収集された歴史情報の積極的公開や、魅力ある市史講座、講演会の開催に努める。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
C	評価の視点	・スポーツ少年団の脱退が増えており、指導者数の減少に歯止めがかからない傾向にある。（元年度目標値95人、実績48人、達成度50%）
	改善の視点	・指導者同士の横の連携を深めるとともに、人材の発掘に努める。
A	評価の視点	・按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会の参加人数を指標とし、市民がスポーツに参加できる機会を提供した。（元年度目標値10,800人、実績10,300人、達成度95%）
	改善の視点	・市民のスポーツへの関心は高いことから、今後も参加機会の提供が増加できるよう努める。
A	評価の視点	・既存施設改修計画に基づく改修率を指標とし、市民が広く利用できる施設の環境整備を行っていく。（要望に対する取組率　元年度目標値100%、実績 要望3件・取組3回、達成度100%）
	改善の視点	・市民運動場整備等実施設計業務委託、南中学校夜間照明設備設置工事、大原武道場空調設備設置工事を行い、スポーツ環境の向上に向けた取組みを実施した。伊東市体育施設整備基金も大幅な積み立てができ、今後も施設整備の調査・研究に努める。
B	評価の視点	・市芸術祭の出品者数、参加者数、観客数の合計を指標とし、市民が自ら芸術文化に触れる機会の創出を図った。（元年度目標値13,800人、実績8,992人、達成度65%）
	改善の視点	・全体的に減少傾向にある中、展示の工夫などにより、現状維持されている。今後も更なる工夫や、市民の参加を促していく。
A	評価の視点	・講座及び教室の参加者数を指標とし、文化財に対する理解を深めた。（元年度目標値95人、実績951人、目標達成）
	改善の視点	・小中学校への出前授業や団体への出前講座により、文化財や歴史の普及に努める。
A	評価の視点	・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。（元年度目標値235人、実績210人、達成度89%）
	改善の視点	・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。

【令和２年度】

担当課	施策分野	No.	事業名		評価	評価及び改善の視点	
生涯学習課	歴史・芸術文化の振興	68	芸術文化活動の支援	文化育成への支援	D	評価の視点	・伝統文化子ども育成支援数を指標とし、伝統文化の育成と継承に努めた。（2年度目標値10団体、実績3団体、達成度30%）
						改善の視点	・伝統文化子ども育成支援への申請が一定化していることから、広報により、伝統文化の育成と継承に努める。
	青少年の健全な育成	69	声かけ・あいさつ運動の推進	声かけ・あいさつ運動の推進	A	評価の視点	・あいさつ運動賛同者数を指標とし、学校や各団体等と連携を図り、組織的にあいさつの輪を広げていき、地域づくりや安全な環境づくりに寄与した。（2年度目標値21,000人、実績17,536人、達成度84%）
						改善の視点	・新型コロナウイルス感染症の影響により積極的な推進活動依頼が出来なかったことにより2年度の賛同者数増加はわずかであったが、目標を十分達成したと考える。 今後は、感染症対策を講じる中で、引き続き、こまめなあいさつ運動実施をお願いするなど、『あいさつの響きあうまちづくり』を目指した取組を進めていく。
		70	地区青少年健全育成活動の活発化	青少年育成市民会議の推進	―	評価の視点	・少子化に伴い育成会の活動が減少していることや、人口減少等により地域の担い手が不足していることなどの理由により、本市の育成市民会議は、令和2年6月に解散した。（2年度目標値600人、実績 －人、達成度 －%）
						改善の視点	・地域の子ども達を地域で守り、育てるためにも地域の方々に青少年健全育成活動に係る認識を深めていただくとともに、新たに各地域で青少年を見守る取り組み等を模索していく。

【令和元年度】

評価	評価及び改善の視点	
C	評価の視点	・伝統文化子ども育成支援数を指標とし、伝統文化の育成と継承に努めた。（元年度目標値9団体、実績5団体、達成度56%）
	改善の視点	・伝統文化子ども育成支援への申請が一定化していることから、広報により、伝統文化の育成と継承に努める。
A	評価の視点	・あいさつ運動賛同者数を指標とし、学校や各団体等と連携を図り、組織的にあいさつの輪を広げていき、地域づくりや安全な環境づくりに寄与した。（元年度目標値20,100人、実績17,494人、達成度87%）
	改善の視点	・日々の活動や7月、11月のあいさつ一斉活動等を中心に取組むほか、本活動を掲載している「かわら版」を広報に折込む等、市民に周知し賛同者を増やし市全体で「あいさつ運動」を推進していく。
A	評価の視点	・地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数を指標とし、市民総ぐるみの運動を展開し、青少年の心身の健全な育成を図った。（元年度目標値550人、実績500人、達成度91%）
	改善の視点	・市内15地区にある青少年育成市民会議の活動を積極的に支援することで活性化を図っていくほか、少子化等により活動を縮小せざるを得ない地区等には、効果的な活動を協議していく。

7　学識経験者による意見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている学識経験者による知見の活用は、今日までの伊東市の教育行政の課題を理解しているという観点から本年度も保護者団体、教育経験者等を活用することとし、次の２名の方から様々なご意見、ご助言をいただきました。

（５０音順　敬称略）

氏　　名	所　　属　　等
操上　俊樹	教育経験者（伊東市立学校校長会会長）
杉山　純也	伊東市ＰＴＡ連絡協議会会長

伊東市教育委員会の自己点検・評価への意見

1　全体について

・　長引くコロナ禍により、教育面においても大きな影響が出ています。例えば、学校では学校行事をはじめとする教育課程の変更や不登校児童生徒の増加、また、部活動休止期間による体力・健康維持への不安も生まれています。

生涯学習面においても、図書館の利用やスポーツ指導者の育成については、その影響を受け、自己評価も低下せざるを得ない状況であります。今後も続くと思われる新型コロナウイルス感染症対策の中、伊東市の教育活動を停滞させないためにも、新しい発想で各事業を考え直していく必要があるかもしれません。

2　教育環境の整備

⑴　全体について

・　園・学校の環境整備については、要望に基づき修繕、改修していただき大変感謝しています。この自己点検においても高い評価に値すると考えます。

⑵　№17「魅力ある学校給食の提供」について

・　学校給食における残食率が上昇しました。その要因のひとつとして新型コロナウイルス感染症の予防対策の影響が考えられますが、この部分で具体的な改善策を講じる必要があると思います。また、学校の指導にも課題があると思いますので、今後協議していく必要があると思います。

・　ふるさと給食は、とても良い取り組みだと思います。

令和２年度の伊東市観光課『伊東温泉観光客実態調査報告書』によると、観光客が伊東を旅先に選ぶ理由として、美味しい食事を楽しむため、との回答が温泉保養に次いで２番目に挙げられています 。

少子化が進んでいるとはいえ、首都圏からは多くの人たちが伊東の食材に魅力を感じ観光に訪れています。その魅力を子供たちに気づいてもらうことは、伊東に愛着を持ち、これからの伊東を盛り上げてくれる大きな原動力になると期待しています。

⑶ №19 から№21 までの『ＩＣＴ教育環境整備の充実』について

・ ＩＣＴ教育の環境整備に尽力いただき、令和２年度は大きく前進しました。大型電子黒板の整備により、学校の授業が大きく変わりつつあります。このことはこの自己点検においても高い評価に値すると考えます。学校では、これらの機器をより有効的に活用できるよう、教職員の研修が望まれます。

また、令和３年度の一人一台端末の整備・活用に向け、短い期間で調整していただいたことは伊東市の学校教育にとって大きな前進であります。

・ 地元に就職先が無い、との理由で、多くの若者が伊東を離れています。しかしＩＴを使いこなすことで、地元に居ながらでも様々なビジネスチャンスが生まれます。コロナ禍を機にテレワークやオンラインミーティングが一般的となったとなったことで、その機運は手の届くところまで来ています。ＧＩＧＡスクールを単に国の施策として捉えるのではなく、10 年 20 年先の伊東を見据えて、独自の先進的な教育方針を打ち出していただきたいです。

⑷ №22「小中学校の規模と配置の適正化」について

・ 川奈小と南小の統合は伊東市として初めての経験でありましたが、計画的な協議や事前の交流活動のおかげでスムーズに移行できたと思われます。一方で、川奈小の備品などの取扱いについて多少混乱があったと思われます。教育委員会と学校の役割分担がやや不明確であったように感じます。

・ 川奈小と南小の統廃合は、これから続く市内小中学校統廃合の手本となります。環境の変化が子供たちにどのような影響を与えているのか、実際に見聞きしないと得られないデータがあります。今後の統廃合に活かすためにも、アンケート等を利用して追跡調査を行うことは可能でしょうか。

・ 東小・西小・旭小については、３校統合ということでより綿密な調整や準備が必要となります。行政、地域、学校それぞれの思いを引き上げ

ながら、折り合いを付けていくことになると思います。その調整役はなかなか難しいと思いますが、教育委員会が一丸となって取り組むことで、よりよい学校の誕生につながると思います。

・　統合により通学路が大きく変更になるご家庭については、新しい通学路に関する情報が乏しく不安を抱くことが想定されます。事前に危険個所や不審者情報等のハザードマップを配布していただけると、安全に対する心構えができると思います。

３　教育の充実（保育園・幼稚園）

⑴　全体について

・　保育施設などでの痛ましい事件を、近年よく耳にします。自分の意志で行動できない年齢の子供ほど、大人による盤石なサポートが必要です。再編の流れの中で、今まで見落とされてきた脆弱箇所などの洗い出しを行い、新たな体制に活かしてください。

・　幼稚園に関しては、預かり保育など、その体制に着目されやすいですが、幼稚園教育の素晴らしさ、その陰には職員の努力があることをもっとアピールしても良いのではないかと思います。同時に、家庭教育の重要性を積極的に発信していく施策も大切であると思います。保護者のニーズに対して行政や園がどう応えるかも重要ですが、それ以上に、子どもの成長は親次第であることを行政が強く訴えること、そして支援していくことが重要であると思います。

⑵　№26「障がい児保育の充実」について

・　障がい児保育において「可能な限り障がいのある児童の受け入れを行った」ことは大きな前進です。特別な支援が必要な児童も含め、今後増加傾向にあるこのような子どもたちに適切な支援をするための人的、設備的な整備が必要となります。

４　教育の充実（小・中学校）

⑴　全体について

・　ＩＣＴ教育の充実を目指し、教育総務課と連携し、ＩＣＴ教育部会の立ち上げやセキュリティポリシーの改定など、学校にその指針を示してくれたことで、スムーズに進めることができています。

⑵　№43 から№47 までの『「人として備えたい力」の育成』について

・　令和元年度の評価に比べ、「人として備えたい力」の育成において評価の向上が見られます。幼保小中連携や道徳教育、特別支援教育などの推進がその要因と考えられます。

⑶　№52「教育支援の充実」について

・　令和２年度に中学校通級指導教室設置のための体制を整えたことは、伊東市における特別支援教育の大きな一歩となりました。令和３年度、スムーズにスタートできるように整備していただいたことに感謝しています。今後、計画的に教室内の備品の充実を図っていただきたいと思います。

５　生涯学習活動の推進、市民スポーツ活動の支援、歴史・芸術文化の振興、青少年の健全な育成

⑴　全体について

・　新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業が中止、縮小となっているため、各事業の評価も客観性に欠けますが、その中でも、学びやスポーツを楽しむ市民のために、可能な限りの工夫をしてきている担当課の努力には頭が下がる思いです。生涯学習分野の事業は、市民に豊かな生活を提供するための大切な取組だと思います。人手不足や施設等の課題もあると思いますが、今後も事業の充実を願います。

・　生涯学習の機会を提供するために様々な活動を行っていることは評価できます。しかし、ネットで検索できる情報は問い合わせ先程度で、活動内容があまり伝わって来ないのが残念です。敷居が高く感じ、元々興味を持っている人にしか届いていないのではないかと思います。

　指導者も熱意を持って活動を行っているわけですから、その思いを伝える記事や活動写真などを上手にアピールし、これから何かを学びたいと思っておられる方が興味を持つきっかけとなるよう、更に、工夫を凝らしてみてはどうでしょうか。

⑵　№62 から№64 までの『市民スポーツ活動の支援』について

・　杉村選手のパラリンピック金メダル獲得や、南中学校の全日本中学校陸上競技大会男子 400m リレー優勝など、令和３年度は全国レベルで明るい話題の多い年になりました。

　市民のスポーツへの関心も高く、好ましいことだと思います。市民の健康促進、また、地域コミュニティに多様性を与えることにも繋がりますので、引き続き市政によるサポートをお願いします。